## 2　平成３０年度学校教育指導の重点全体構想について

# 確かな学力

### 1　主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり

新学習指導要領に基づいて、目標、指導内容を３つの柱で構造的にとらえるとともに、「何のために学ぶのか」を明らかにし、具体的な目指す子どもの姿を明確にして単元（題材）及び本時のねらいを設定する。また、身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力、判断力、表現力等や学びに向かう力を育成したりして、各教科の特質に応じた見方・考え方を働かせ、自立的、協働的な学習の過程を　重視した授業づくりを進めることが大切である。

○　**ふくしまの「授業スタンダード」に基づく授業づくり**
- 　単元の目標の把握、子どもの実態の把握、教材の価値の把握を進め、単元全体を見通した指導計画、評価計画を立てる。
- 　授業における教材との出合いを大切にし、「問い」や「思い・願い」を引き出す工夫を行う。
- 　解決の見通しや活動の計画を立てる段階を重視し、子どもが主体的に自力解決に取り組むことができるようにする。
- 　対話的な学びを重視し、ペアやグループでの解決の場面では、思考を可視化する工夫、考えが深まる教師のコーディネートの充実に努める。
- 　「何を学んだのか」「どのように学んだのか」の視点で子ども自身が自覚的に学びを振り返る場面を設定し、確かな理解と定着を促す。

○　**個に応じたきめ細かな指導の充実**
- 　子ども一人一人の学習状況の見取りを工夫し、「深い学び」へ導くコーディネートに努める。
- 　課題の見られる単元において習熟度別指導やＴ・Ｔなどを効果的に取り入れるなど、少人数教育のよさを生かした指導方法を工夫・改善する。

### 2　主体的な学習を支える基盤づくり

○　**ふくしまの「家庭学習スタンダード」の活用**
- 　学習習慣や生活習慣の確立に向け、保護者の理解を促しながら、学校及び家庭における学習の連続性をもたせる工夫を行う。
- 　家庭学習の目標の設定や実施、振り返りなどの R-PDCA サイクルを通して、子どもに「自己マネジメント力」を身に付けさせる。

○　**「学び方」「学習規律/習慣」の確立**
- 　学びに向かう基本的な態度や心構え、話し方、聞き方など授業の約束事を、子どもの発達の段階を踏まえて共通実践する。

○　**子どもの主体性を生かした読書活動の推進**
- 　司書教諭等を中心に、学校全体で協力体制をとりながら、子どもや教員のニーズに応じた図書の充実を図り、読書活動が充実する魅力ある図書環境をつくる。

### 3　組織的な学力向上策の推進

○　**学力向上グランドデザインの改善と推進**
- 　課題解決に向けた具体的な手立てやそれを具現化する場面や時期、評価の指標や方法を位置付けるなど、グランドデザインの実質的な改善を図る。

○　**学力調査等の結果を受けた、機能的なPDCAサイクルの構築**
- 　各評価用テスト等を活用したショートスパンの PDCA サイクルと各学力調査を活用したロングスパンの PDCA サイクルを機能させ、全校体制での取組を進める。

### 4　教師の指導力向上のための体制づくり

○　**目指す子どもの姿に基づく校内研修の充実**
- 　学校課題を明確にし、教員が共通の目指す子どもの姿をもちながら指導実践することで、主体的な研修が進められるように工夫する。

○　**「互見授業」による教員の学び合いの推進**
- 　深めたい指導の工夫を焦点化して授業を参観し、授業改善への取組が日常的に行われるように授業研究会のあり方などを工夫する。※

※「校内研修改善に向けた４つの提案」　平成 28 年 3 月　福島県教育センター